

ファクターX

2020.8.31

新型コロナウイルス感染症は、いまだに猛威を振るっている。とはいえ、強制力のない「緊急事態宣言」や自粛要請に頼るしかなかったにもかかわらず、ここ数か月の日本の対応は他国には信じられないほどの成果を残している。

新型コロナウイルス感染による死者は、アメリカ約14万人、イギリス約4万5千人に対して日本は千人ほどである。百万人当たりの死者にしても、イギリス約660人、アメリカ約430人に対して、日本は8人を下回っている。一時懸念されたオーバーシュート（爆発的な感染拡大）も医療崩壊も今のところは起きてはいない。

これをアメリカのワシントンポストは「コロナウイルスのミステリー」と呼び、日本の著名な方も「ファクターX」、つまりはその理由は分からないと言っている。日本人がデモや暴動を起こさず、自粛要請を粛々と守り、手洗い・うがい、マスクの着用や換気をしっかり行っていたというのは事実である。

確かに、日本で新型コロナウイルスによる感染者や死者が低く抑えられている理由は「ファクターX」、分からないことなのかもしれないが、私個人としては、それは日本人が歴史の中で育み、磨いてきた倫理観や道徳、規律や秩序を自ら守ろうとする国民性に帰するよう思えてならない。ここには、家庭教育や社会教育はもとより学校教育の力が大きく働いていると考える。教育の力は大きいのである。もう少し、教育の力、教育的効果に対して光が当てられてもいいのではないかと考えるのは私だけだろうか。

日本人には「清潔」という観念がある。日本中どこにでも公衆トイレがあるし、犬の散歩一つにしても、犬の汚物をまき散らしたままにする人はほとんど見当たらない。日本人は、自分の家よりもみんなで使う場所を優先させてきれいにする。公衆道徳、モラルの問題である。

今回のコロナ禍で明らかになった他国との違い、数字として得られた成果を「ファクターX」で終わらせずに、その背後にあるものは何なのか。知識人だけでなく日本人一人一人が真剣に考えていくことが重要なのではなからうか。有事だからこそ浮き彫りになった日本のよさ、日本人のすばらしさについて、もう少し取り上げてもいいのではないだろうか。そうすることで、これからの日本の未来を託す子どもたちにもいい教育ができるように思う。

加えて、死生観の問題についても考えていきたい。一人の人間として、日本人としていかに生き、いかに死んでいけばいいのか。コロナ禍を契機に、一人一人がこうした死生観の問題を考え、自らの生き方を磨いていくことが、本当に幸せな人生、日本の確かな未来に繋がっていくのではなからうか。

「ファクターX」ということは、日本人が自らのすばらしさに気づいていない、あるいはそれを認めていないということである。他国に対して、声高にそれを誇示する必要はないが、せめて「日本モデル」として認めてもいいのではないだろうか。やはり、日本人は自己肯定感が低すぎるのかもしれない。今日で8月が終わる。今年は、この先どんな秋が待っているのだろうか。